

全員協議会会議録

- 1 日 時 令和7年1月22日（水） 10時05分開会 11時05分閉会
- 2 場 所 第2委員会室
- 3 出席議員 山本奈央・田村幸紀・只野敏彦・川上 均・中河つる子・鈴木孝寿・
橋本晃明・桜井崇裕・佐藤幸一・西山輝和・中島里司・
深沼達生・議長：山下清美
- 4 事務局 事務局長：大尾 智、次長兼総務係長：川口二郎
- 5 議 件
 - （1）総務産業・厚生文教常任委員の選任について
 - （2）広報広聴常任委員の選任について
 - （3）議会運営委員の選任について
 - （4）その他
- 6 会 議 録 別紙のとおり

【開会 10:05】

(1) 総務産業・厚生文教常任委員の選任について

山下議長：只今より全員協議会を開催する。総務産業、厚生文教常任委員の選任については、最初に各議員より希望を聴取して全員協議会を休憩して、正副議長により案を作成して、全員協議会を再度開催し、案を発表して決定して本会議に臨む形にしたいと思う。なお、議長は常任委員会に選任されるが辞任する形をとるのでよろしく願います。提案中の総務産業、厚生文教常任委員の選任については、委員会条例第7条の規定により会議に諮って指名することとなっている。運用例第70項の規定によりあらかじめ本人の希望をとらせていただいて調整をさせていただく。正副議長で調整の上最終的に結論をそれぞれの常任委員会を決めていきたいと思う。このような流れで進むことでよろしいか。

(「はい」との声あり)

山下議長：このような形で進めるのでよろしく願います。希望調書を配るので記入願う。暫時休憩する。

【事務局希望調書配布・回収】

【休憩 10:07】

【再開 10:34】

山下議長：休憩前に引き続き会議を再開する。それぞれ希望を聞いて10名の方は希望どおり、2名の方は違う委員会を希望していたので、4年の中で2つの委員会をそれぞれ経験したいという方が10名、引き続き今の委員会に残りたいという方が2名いたけれども、全体の中で希望がそれぞれ4年の中で経験したいということで、今お配りした案のように決定させていただいた。結果的にそれぞれ4年間の中で総務、厚生を経験していただくという内容で決定させていただいたので進めていきたい。異議ある方いるか。このとおり常任委員会を決定させていただくのでよろしく願います。

桜井議員：異議があると言えば異議があるが、私の場合3期やっていて前半は全部総務産業である。それで今期は厚生文教の方を前半はやらせていただいたが、後半も厚生文教でやらせてもらいたいと思いながら希望を出したが、そのようなことを考慮してもらえないのかどうか聞きたい。

山下議長：全体の中で考慮したいけれども、10名の方がそれぞれ1期の中で経験したい、1期、2期の方はそれぞれ違う委員会を経験したいという希望があった。そういう中で経験豊富な方がいるけれども、そういった方が今回も厚生という話であり、振り分けの中でやむを得ずこういう結論にしたいと思うので了承いただければ。

桜井議員：1期の中で、前半と後半と違う委員会をやりたいという希望はいつとったのか。

山下議長：今、希望をそれぞれ出してもらった。

桜井議員：出したのは丸付けただけであって、そういう意思表示というのはできないだろう。

山下議長：意思表示というよりはそういった意図があるのかなと。

桜井議員：それは聞いたわけでもないのに。

山下議長：それは訂正する。それぞれ希望した10名がこういう希望をしているので、10名の方は希望どおりにさせていただいた。そして調整の中でそれぞれ違うところを希望していたようなので、そういった形で配置をさせていただいた。これで進めさせていただきたいと思う。

佐藤議員：私も希望どおりではないが、何で決まっていたのか。

山下議長：希望はとったけれども、調整は正副議長に任せるということで今までもやっているの、正副議長で調整をさせていただいた。

佐藤議員：これなら希望取らなくてよかったのではないかな。

山下議長：希望とらないとどちらを希望しているのかわからないので。

佐藤議員：希望どおりでない私。

山下議長：前回は調整をした中で、従前もそういった形でやっている。

鈴木議員：私も過去に3期目だけでもやっているわけである。議長と副議長に呼ばれてこちらの委員会にいつてくれとか、こっちにいつてくれと、今回はやってないだろう、調整してない。一方的である。皆一発希望で決まったのだと思ったら、調整とは何か。

山下議長：正副議長でどういった委員会構成がいいかということで、希望をまずは中心ということでやった。

鈴木議員：その希望どおりに叶えたらいいではないか。

山下議長：希望どおりに叶えたらそれぞれが8人になったり、5人になったり。

鈴木議員：そうしたらその時どうするのか。調整は本人たちと話をして調整する。過去に初めてである、こういう運用されているのは。調整は一任されているけれども調整とは何か。調整という言葉日本語で教えてください。私がこういうようにやるということか強制的に。

山下議長：私はこういうふうにやるということで、副議長と相談しながら。

鈴木議員：副議長と強制的にこうやってもらおうと、これからもそういうことだということだよろしいか。

山下議長：強制的という言葉は使っていない。

鈴木議員：でもこれはおかしい。しっかり調整して。

橋本議員：私は前に6年間議員やったけれども、あの頃は三つ委員会に分かれていて、産業の希望を出したけれども1回も産業はやったことなくて、それで事前に何か議長から希望のとおりにはいかなかったけれどみたいな話は、昔はなかったと思う。議長が決めると言って一任とったのだから、それに従うしかないと思うけれども。

鈴木議員：僕は違う。議長が調整するということで一任したのである。調整していないだろう。決めるというなら決めて結構。

桜井議員：橋本議員の時代は私よく知らないが、前加来議長あるいは私が引き継いだときはそれなりに調整をして、事前に諮って希望を聞いたようなことがあった。そして最終的にこういう体制を取ったが、それが今回は何もなかった。

中島議員：昔あったとか今とかではなくて、調整を、議長前回2年前にやったときに、私議長室に呼ばれている。委員会が違っていたので。総務が長かったので、それで前回も厚生だったけれども、そのとき議長に呼ばれて議長室で話し合って私は了解してそのまま総務にいた。それが調整だろう、全員の前で調整なんていうことはあり得ない、事前に説得をすべきである。関係ない人は黙って聞いてないとならない。調整は議長室でやってそして説得をした上で、こうやって発表するならシャンシャンといく。前回私はそういうことで記憶あるので、とにかく最終的に私がわかったという話で総務の方にいったけれども。だからそういうのを事前に話して希望を叶えられないと、こうこうこうだからということの説明して、そこで調整して発表すれば、わかりましたで終わるはずだろう。大体調整を全議員の前でなぜやらなければならないのか。調整の仕方がちょっと違う。ここで私が決めたという、それは議長一任とよく言うけれども、それなら希望をとる必要ないだろうということになる。だから個々でやはりやるべきだった。今聞いたら2人だっただろう、他はちゃんと話し合いでうまくいっている最初から、2人だけがそういうような思いができるので、本来であれば調整をした上で皆の前に出せばよかったのではないかと思うけれども。なんかちょっと手順が数の世界で全部仕切れるなんていう発想ではないからこれは。議員活動の一環としてそれぞれ持っているものがあるから希望しているのだからと思う。まとまらなかったら困るのでまとめて。

山下議長：調整という部分の考え方が甘いというように4人の方からあった。理解をいただけるだろうと副議長と相談しながら決めたところである。不満もあると思うけれどもこのとおり進めさせていただきたく、よろしくお願いします。

佐藤議員：これなら希望とならい方がよかった。2回連続違う、逆である。

桜井議員：希望と違う人たちの思いというのは何も聞かないでということ。私もずっと産業経験が長いから今期は厚生文教でしっかりやりたいという思いは叶えられないということ、言ってみれば。

山下議長：議員個々にはそれぞれ思いがあると思うけれども、総務と厚生の希望はそれぞれあって叶えられない方も出てくると思いながら調整をさせていただいた。これは副議長と調整をさせていただいたところである。

鈴木議員：13人しかいないのに、申し訳ないけれどこっちいつてくれるかいと一言言えば、過去にずっとそうやってきたではないか。最近10年以上やっている。一方的

にやるならわかった。これからも一方的にやられるのであれば私もこの2年間しっかり一方的にやっていきたい。自分の主張のみをしっかりとやっていくというようになってしまったら嫌だから、調整してと、調整すると言って調整していない結局、調整とは何か、紙だけの調整だったのか。だったらやらなければ良かった。私は第1希望だからいいけれどもちょっとやりすぎである。

深沼議員：実際蓋を開けたときに10人の方、割と厚生の方に固まったというのもあって、皆が前半と違うところという部分があったので、違う方にいってもらえないかと、事前にそうしてくれないかと言わなかった部分、そういう調整ができなかったことについては手落ちがあったと思う。ただ前期と後期で違う方の委員会にいつてくれたら嬉しいなど。

鈴木議員：例えば、佐藤議員にしても桜井議員にしても、前回2年前そういう希望を出して厚生にいつてくださいと言っている。今回は何をした、一方的である。2年前のことは忘れている。対応についてはもういくら言っても決議とればいいけれども、ちょっと運営の仕方が乱暴だ。昔の国会みたいな感じでこれで決めてくれと言うのなら、それはそれで多数決をとって。それぞれが納得するのではなくて、調整とは何か、これからも調整なしだよ絶対、となってしまうから、どうしてこのような出し方しているかと思って。

山下議長：副議長からも話したけれども、調整の場が手落ちだったという部分では私も反省している。この場になるけれども桜井議員、佐藤議員については、希望と叶わないけれども、前期は総務を希望していたので総務の方ということで、こちらで副議長と勝手に判断をさせていただいた。これを調整の場とするというのは申し訳ないけれども、これでお願ひしたいと思う。

桜井議員：前半でやったから次は違う方いけと、考え方がおかしくないか。それならはじめからそういうように決めるというやり方をすればいい。1期目やったら次違う方をやってくださいと。何もそんなこと一つもなしにそれはないだろう。1期や2期のあれならわかるが、私もいろいろ経験したいという、色々な所管をやりたいという希望はわかる。3期とか色々経験している人間に対してそれはおかしい。もう時間もないしやるならやってもいいけれども、絶対不満は残るし、委員会の中で、所管の中で私がやっても色々不満は残ると思う。

山下議長：それぞれ不満もあると思うけれども、正副議長でこのように調整をさせていただき、そして全員協議会の場が調整の場となってしまったことは申し訳ないと思っている。これで進めていただきたくよろしくお願ひしたい。

鈴木議員：調整するならここからまだ動き、余地があるということ。全員協議会で調整の場になりましたと言ったが、ここから例えば私も総務産業行きたいと言ったら調整してくれるのか。

山下議長：第1希望があるのでそこまでは調整はできない。

鈴木議員：そうだろう。最終調整してと言ったのである。

只野議員：それを認めて謝っているわけだし、結果がどうなったとしてもこの部分でそれを全部入れ替えたなら全部の希望がみんな通らない。だから10人だけの希望を通したというのを言っている。けれども調整のことに関しては申し訳ないと謝っている。これを通してくださいと頭を下げている。

鈴木議員：変えてくださいと言っている。

只野議員：変えてくださいというのは変えられないと言っている。

川上議員：強制ではないから。

只野議員：強制ではないから調整ができなかったのは失礼しましたと言っている。そのままではいかせてくださいと言っている。

鈴木議員：ごめんなさいは。責任問題である。

只野議員：そこは議長がこのままでいかせてくださいとお願いしていて、皆が嫌だ嫌だと10何人がなったら仕方ないけれども、そうでなければ進めることになってないか。

鈴木議員：少数の意見を聞かないということで、採決を取れと言っている。

桜井議員：私は委員会で決めた今回の選任については不満が残ると言った部分についてはどういうあれをするのか。今そういう決め方の問題じゃなくて、その不満を持った佐藤議員がどうか知らないけれども、そんな状態で委員会構成ができるのか。

佐藤議員：これをやるのなら希望なんてとらなくてよかった。

只野議員：希望をとって10人は自分の希望どおりいっただろう。

佐藤議員：今回も前回も希望どおりでない。

只野議員：今回は10人が希望どおりにいっただろう。

川上議員：自分が希望どおりではなかったらどうするのだ。

只野議員：そうなったら文句言わない。

川上議員：そういう問題ではない。

鈴木議員：今までの流れではないということ。

只野議員：それはそれで謝っているではないか。

鈴木議員：謝って済む問題なのか。

只野議員：そこは謝って済むか済まないかわからないが、進めさせてくださいと言っているのだから。

中島議員：関係ない人が言い出すのだから、調整してということだから、関係ない人が思いを言っているのだから、ならばここで関係者と話し合ってやるのが筋だろう。発表になったから了承してというのは民主主義ではないから、希望を取ったのだから、希望どおりいかないのは皆分かっているのだから、数が限られているのだから。だから改めて休憩して呼び込んでもう一回話し合い直したらいい。

山下議長：暫時休憩する。

【休憩 10：56】

【再開 10：58】

(2) 広報広聴常任委員の選任について

(3) 議会運営委員の選任について

山下議長：休憩前に引き続き会議を開く。副議長と桜井議員、佐藤議員に同席いただいて、後先になったけれども話をさせていただいて理解をいただいたところである。今後、副議長とそれぞれ議会運営にあたっては十分話し合いをしながら進めていきたいと思うのでよろしく願います。そういった中で調整させていただいて、先程申し上げたとおりの委員会構成に進めさせていただきたいと思うので理解の程よろしく願います。続いて今後の流れであるけれども、総務産業常任委員会に私の名前が入っているけれども、辞任をさせていただいて総務産業から外れる形をとらせていただく。本会議の中で副議長に交代して私が自席に戻り、辞任を申し出る形をとっていききたいと思う。また、それぞれの総務産業、厚生文教常任委員会の中では正副委員長を互選してもらう中で年長者の議員の方が臨時委員長になって委員長を決めていただいて、その後委員長を交代しながら副委員長の互選をしていただく。その後厚生文教常任委員、議会運営委員を選任するわけだが、広報広聴常任委員については3名ずつそれぞれの委員会から選出をお願いしたいと思う。議会運営委員については各委員会の委員長ともう1名が議会運営委員会の方に選出いただきたく、そういった部分を考慮しながら広報委員を選任していただければと思うのでよろしく願います。このような流れで進めてよろしいか。それぞれの所管事務調査の申し出を改めて決めていただきたいと思うので、正副委員長互選、広報委員の選任、議会運営委員の選任、最後に総務と厚生在所管事務について申し出、これは一般的な申し出事項になると思うけれども、今の閉会中のが26日で切れてしまうので、27日以降の所管事務調査ということで、12月と同様の項目になると思うけれども委員会で決定をしていただきたいと思う。その後本会議を開いて委員の報告をさせていただく。そしてまた本会議を休憩して総務産業常任委員から行い、厚生文教常任委員会を開く。再開をしてそれぞれ正副委員長が決まったものを報告。広報委員を報告、議会運営委員を報告して休憩して、広報委員会と議会運営委員会を開催して正副委員長を互選するという流れで進めたいと思う。このような流れで進めるということではよろしいか。

西山議員：一つ確認、各委員会で委員長と副委員長を選任して、議会運営委員が何名か。

山下議長：委員長ともう1名の方。広報委員は3名。議会運営委員は2名になる。監査委員については広報、議運それぞれに入らない形になる。また、副議長については議運の方に入る形になるので、そのような部分も考慮しながら選出をお願いする。

(4) その他

中島議員：その他で、常任委員会の所管事務調査において外に出た場合、そこでお礼とか挨拶というのは基本的に常任委員会活動だから、もし議長がいてもそこで議長が挨拶したりするのは、議長は常任委員会を辞任しているのだから、委員会の

責任で取り進めるということを委員長になった方はしっかりと自覚を持つべきだと、議長お願いしますということには、それを受けるというのもおかしい。議長は常任委員ではないから。所管事務調査は常任委員会の活動だから、議会活動ではないから、その辺の意識をしっかり持っていただきたい。

山下議長：常任委員長を選任するにあたっては、そのような心構えを持って選任をしていただきたいということで、私からもそのように伝えたいと思う。以上で全員協議会を終了する。本会議は11時10分に再開する。

【閉会 11：05】